

令和3年度

事業報告

社会福祉法人 勝山市社会福祉協議会

法人運営事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	法人運営事業	法人運営事業	法人運営全般	第1層(全市)
収入(円)	会費	寄附金	事業収入	負担金収入	受取利息
	3,325,000	319,175	15,000	67,300	533
	雑収入	拠点区分収入	サービス区分収入	階層区分収入	計
	49,163	7,998,880	63,500	97,890	11,936,441
支出(円)	人件費	事業費	事務費	その他支出	固定資産
	7,610,726	1,259,726	414,116	7,150	990,216
	階層区分支出	退職積立			計
	94,860	63,500			10,440,294
事業概要	予算・決算・補正予算の決議、法人運営				
事業報告	①毎月収支報告書の提出 ②事業収入の安定化 ③事業経営の透明性の確保				
	理事会	日・出席人数	内容	日・出席人数	内容
		6月3日	令和2年度決算・事業報告、財産目録	11月25日	令和3年度補正予算(第1次)
		理事12・監事2		理事10・監事2	
		6月18日	勝山市社会福祉協議会会長・副会長・常務理事の選任について	3月15日	補正予算、令和4年度予算、事業計画、経理規程の一部改正
	理事11・監事2	理事8・監事2			
	評議員会	日・出席人数	内容	日・出席人数	内容
		6月18日	令和2年度決算・事業報告、財産目録	3月29日	補正予算、令和4年度予算、事業計画
		評議員20 理事11・監事2		評議員18 理事10・監事2	
		12月15日	令和3年度補正予算(第1次)		
	評議員20 理事10・監事2				
	役職員研修会:秋(空き)セミナー 令和4年11月12日(金)13:30～15:30 161名参加 「空き家マッチングに必要な所有者との寄り添い方」 講師 NPOふるさと福井サポートセンター 理事長 北山 大志郎氏				
R3振り返り	補助金の新規獲得に努めた。コロナ禍での労務管理など、様々な変更点に対応した				

退職積立金事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	法人運営事業	退職積立金事業	退職積立金事業	第1層(全市)
収入(円)	各階層より				計
	4,702,860				4,702,860
支出(円)	退職給付預け金				計
	4,702,860				4,702,860
事業概要	全国社会福祉協議会が運営する退職積立基金事業と契約加入し、退職金として積み立てている				
事業報告	全社協へ、退職金掛金を納付 総額 4,702,860円 退職給付積立基金預け金 56,290,450円 退職給付引当金 69,280,930円				
R3振り返り	令和3年度、新規2名分増				

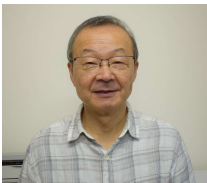
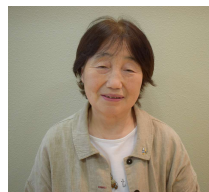
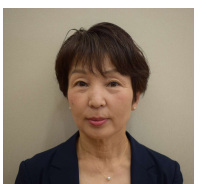
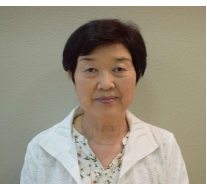
社会福祉事業基金運営事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	法人運営事業	社会福祉事業基金運営事業	社会福祉事業基金運営	第1層(全市)
収入(円)	寄附金	受取利息			計
	45,675	97,888			143,563
支出(円)	社・基金積立金	法人運営事業へ			計
	45,675	97,888			143,563
事業概要	社会福祉事業寄附金の受け入れ、基金の管理・運用				
事業報告	社会福祉事業基金 受入れ 7件 45,675円 合計 202,906,331円				
R3振り返り	定期預金にて基金を管理しているが、利息が低く事業に活用できる状況ではない。基金の検討委員会はコロナ禍で思うように開催することができなかったため、次年度に引き継ぐこととする				

ボランティア基金運営事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	法人運営事業	ボランティア基金運営事業	ボランティア基金運営	第1層(全市)
収入(円)	受取利息				計
	2				2
支出(円)	法人運営事業へ				計
	2				2
事業概要	ボランティア基金寄附金の受け入れ、基金の管理・運用				
事業報告	ボランティア基金 受入れ 0件 0円 合計 8,725,201円				
R3振り返り	現在寄附金は、ボランティア基金ではなく、社会福祉事業基金での受け入れを優先している				

地区社協活動事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	地域福祉推進事業	地区社協活動事業	地区社協事業	第3層(地区社協)
収入(円)	市補助金				計
	4,620,000				4,620,000
支出(円)	人件費	事業費	助成金		計
	154,000	51,000	4,415,000		4,620,000
事業概要	住み慣れた地域でいつまでも暮らすことを目的に、小地域での身近な福祉活動拠点としての役割を持ち、きめ細かな福祉を展開する				
事業報告	・地区社協コーディネーター会議 年間12回実施			コーディネーター紹介(敬称略)	
	コーディネーター会議の地区持ち回り制を導入				
	開催日	開催担当地区	開催場所		
	4月5日	市社協	喫茶クイーン		
	5月10日	遅羽	縄文の里		
	6月7日	北郷	木下家	勝山:阿部	
	7月5日	鹿谷	喫茶そら	勝山:大道	
	8月2日	猪野瀬	猪野瀬公民館		
	9月6日	勝山	教育会館		
	10月4日	平泉寺	笹尾 星の蔵	北谷:小林	
	11月1日	北谷	コミュニティセンター	遅羽:斎藤	
	12月6日	野向	あまごの宿		
	1月17日	荒土	荒土公民館		
	2月7日	村岡	喫茶クイーン	猪野瀬:水谷	
	3月7日	市社協	すこやか	村岡:花田	
					
					
					
	平泉寺:栃木			荒土:谷口	
	北郷:松川			野向:滝本	
	鹿谷:宇佐美				
・地域個別支援回数…253回					
R3振り返り	地域個別支援では、各地域の事情や環境に合わせて研修会等の企画、運営支援や、地域での困りごと対応、また、地域課題への対応等もコーディネータと共に考え、事業を行った。地域課題は様々で、必ずしも横並びにならないことの共通認識、共通理解を個別支援やコーディネーター会議を通して共有することができた。コーディネーター会議は単なる事務連絡のみにとどまらず、各コーディネーターが直面している課題や、問題、疑問などに対しても皆で話し合いが持てるよう努めた				

給食サービス事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲																																																							
	法人運営事業	地域福祉推進事業	給食サービス事業	給食サービス	第3層(地区社協)																																																							
収入(円)	共同募金	市受託金	利用者負担金		計																																																							
	0	2,351,000	1,175,500		3,526,500																																																							
支出(円)	人件費	事業費	助成金		計																																																							
	210,000	777,420	2,539,080		3,526,500																																																							
事業概要	65歳以上の①一人暮らし②高齢者のみの世帯③高齢者と障害者のみの世帯で調理が困難で見守りが必要な人に対し、各地区社協ごとに給食サービスを提供する																																																											
事業報告	<table><tr><td>地区</td><td>勝山</td><td>猪野瀬</td><td>平泉寺</td><td>村岡</td><td>野向</td><td>荒土</td><td>北郷</td><td>鹿谷</td><td>遅羽</td><td>北谷</td><td>合計</td></tr><tr><td>登録者数</td><td>155</td><td>14</td><td>12</td><td>34</td><td>24</td><td>12</td><td>3</td><td>12</td><td>8</td><td>7</td><td>281</td></tr><tr><td>回数</td><td>48</td><td>24</td><td>24</td><td>24</td><td>24</td><td>23</td><td>24</td><td>22</td><td>24</td><td>18</td><td>255</td></tr><tr><td>配食数</td><td>2,731</td><td>211</td><td>202</td><td>501</td><td>428</td><td>173</td><td>70</td><td>112</td><td>143</td><td>131</td><td>4,702</td></tr></table>												地区	勝山	猪野瀬	平泉寺	村岡	野向	荒土	北郷	鹿谷	遅羽	北谷	合計	登録者数	155	14	12	34	24	12	3	12	8	7	281	回数	48	24	24	24	24	23	24	22	24	18	255	配食数	2,731	211	202	501	428	173	70	112	143	131	4,702
	地区	勝山	猪野瀬	平泉寺	村岡	野向	荒土	北郷	鹿谷	遅羽	北谷	合計																																																
	登録者数	155	14	12	34	24	12	3	12	8	7	281																																																
	回数	48	24	24	24	24	23	24	22	24	18	255																																																
	配食数	2,731	211	202	501	428	173	70	112	143	131	4,702																																																
	・合計4,702食の配食を行った。弁当を配達することにより安否確認を行った。																																																											
・4月～8月は行政指導により、全地区が業者弁当の配達となった。																																																												
[手作り弁当再開に向けての動き]																																																												
・6/30「給食サービス事業に係る調理の再開について」行政より調理可能との通知が出た。																																																												
R3振り返り	・7/27「給食サービス関係者衛生講習会」開催 63名参加																																																											
	・上記講習会受講後、7月より手作り弁当の再開に向け、各地区で話し合いが持たれた。																																																											
	また、調理室の清掃活動などに取り組んだ。																																																											
	・各地域の実情に合わせて、9月より順次手作り弁当を再開した。																																																											
	・地域によっては、業者弁当を選択した地域もあった。																																																											
	感染症対策を講じながら、ボランティアによる手作り弁当が再開できた。しかし、調理室の使用禁止期間が長期化したため、再開には何度か調理室を掃除する必要があるなど、かなりの負担があった。加えて、調味料等の確認や買い替えなどで再開するまでに時間を要した地区もあった。地区によっては話し合いの結果、手作りではなく業者弁当を選択せざるを得ないところもあった。ボランティア活動を長期間休止したことで、再開がスムーズに行かず休止の影響が大きかったと感じられた。研修会を必要と感じた地区は、市社協主催の「衛生講習会」にとどまらず、自主研修を開催し、ボランティアの士気を高める工夫もみられた。ただ、手作り弁当を再開できた地域の利用者の声としては非常にありがたく、満足されているという声がコーディネーターに多く集まった																																																											

地域福祉救援活動事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	地域福祉推進事業	福祉救援活動事業	福祉救援活動事業	第1層(全市)
収入(円)	共同募金	前期末支払資金残			計
	9,000	11,802			20,802
支出(円)	事業費	固定資産			計
	20,802	0			20,802
事業概要	災害に備えた物資の準備並びに研修への参加。また、災害発生時は災害対応のための資金調達や災害ボランティアセンターの立上げ・運営、さらには職員を現地に派遣する等を行う				
事業報告	●勝山市災害ボランティアセンター連絡会 ▶勝山市災害ボランティアセンター連絡会 会議 開催なし ●研修会の開催 ▶地区社協からの要望に応じて、福井県防災士会に講師を依頼し、研修を行った ●災害用購入機器の点検等 ▶ガス対応発電機の試運転、降雪時は除雪機の動作確認を行うため、除雪等に活用した   発電機 除雪機 ●「災害時における相互協力に関する協定締結」 ▶勝山青年会議所(JC)、勝山市、勝山市社会福祉協議会と「災害時における相互協力に関する協定」の締結に向けて事前協議 12/14 ▶平時より更なる連携強化を図り、情報交換の機会を設け、災害時に復興活動やボランティアセンター運営で協力するなど、素早く支援活動が始めるための体制づくりを進める。災害時体制に移行した場合、円滑な運営ができるよう努める。 ▶1/17 「災害時における相互協力に関する協定締結式」  左: 嶋田 有希 勝山青年会議所 理事長 中央: 水上 実喜夫 勝山市長 右: 加藤 敏彦 当会 会長				
R3振り返り	コロナ禍で今年度も従前してきた研修や設置運営訓練等の実施ができなかった。日本青年会議所と全国社会福祉協議会が1月に「災害時における相互協力に関する協定」を締結したことを受け、当社協も勝山JC、勝山市と同協定を締結した。協定内容には、防災教育や雪下ろし教育などの「防災」「減災」事項も含まれ、今後は子どもたちも対象とし、楽しみながら、取り組みを進めていけるよう共に協力していきたい				

住民参加型在宅福祉サービス事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	地域福祉推進事業	住民参加型在宅福祉サービス	住民参加型在宅福祉サービス和美さん	第1層(全市)
収入(円)	事業収入				計
	60,200				60,200
支出(円)	事業費	当期末支払資金残			計
	28,067	32,133			60,200
事業概要	住民の相互扶助を推進することを目的に、サービスを有料制で行い、在宅福祉の増進を図る				
実績報告	協力会員	1人	派遣延件数	38件	
	利用会員	4人	実働時間	48時間(送迎、入院時洗濯等)	
R3振り返り	一人暮らしの方の入院による洗濯依頼、障害児福祉サービスへの送迎依頼が主な中身であった。コロナ禍のためサービス提供時に病室に入ることはできなかったが、病院と連携し、対応した				

地域ふれあいサロン事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	地域福祉推進事業	地域ふれあいサロン事業	地域ふれあいサロン事業	第3層(地区社協)
収入(円)	市受託金				計
	4,233,200				4,233,200
支出(円)	人件費	事業費	助成金	返還金	計
	30,000	316,700	2,760,500	1,126,000	4,233,200
事業概要	高齢者の生きがいや社会参加、健康づくり、閉じこもり防止を目的に集まれる場所の提供				
事業報告	各地区サロン実績				
		地区名	年回数(R3)	高齢者数(人)	年回数(R2)
	★	勝山	48回	1,141	40回
		猪野瀬	90回	1,093	61回
	★	平泉寺	27回	457	30回
	★	遅羽	71回	606	62回
	★	村岡	79回	1,438	89回
		北谷	1回	10	0回
		野向	28回	327	15回
		荒土	75回	817	51回
		北郷	99回	1,054	85回
		鹿谷	28回	453	23回
		助成金なし	14回	710	—
		合計	560回	8,106	456回
	・★は助成金なしのサロンを実施した地区 ・口腔ケア講座、レクリエーション講座(謝金は市社協負担)を各地区1回ずつ開催				
R3振り返り	コロナ禍2年目で、地域活動の必要性を感じた地区においては、新型コロナウイルス感染症対策を講じて従来通りのサロン活動を実施した。しかし、感染状況も日々変化し、更には会食を禁止するなど開催時の制約も多く、開催することに苦慮される地域も多かった。できたところと、できなかったところの地域間の違いが見られた				

日常生活自立支援事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	地域福祉推進事業	日常生活自立支援事業	日常生活自立支援事業	第1層(全市)
収入(円)	県社協受託金	利用料収入	貸金庫利用料		計
	8,332,000	1,251,600	11,400		9,595,000
支出(円)	人件費	事業費	事務費	固定資産	退職積立金
	8,451,915	340,840	41,000	0	500,000
					計
					9,333,755
事業概要	自立して地域で生活が送れるよう、福祉サービス利用、日常的な金銭管理などを支援				
事業報告	●相談件数等 ・相談件数 延1052件 (R2 920件) ・契約件数 14件[認知症等8件、知的4件、精神1件、その他1件] (R2 6件) ・成年後見制度への移行数 2件(R2 2件) ・総契約数 88件[認知症等39件、知的23件、精神9件、その他17件] (R2 83件) ●相談員の研修会 ・令和3年度日常生活自立支援事業「専門員実践強化研修Ⅰ」2名 オンデマンド動画研修 ライブ配信 事例検討 9月27日(月) ・令和3年度日常生活自立支援事業専門員連絡会 [オンライン研修] 2名 9月29日(水)10:30~12:00 ●生活支援員研修会 ・令和3年度福祉サービス利用援助事業 生活支援員研修会 2月24日(木) 13:30~ 生活支援員11名・専門員2名 本県における福祉サービス利用援助事業の状況について 利用者とよりよいコミュニケーションのために 上村泰子氏 情報交換会[オンデマンド動画講座] ●関係機関との連携 ・奥越自立支援協議会 生活・居住支援部会 1回 10月18日13:30~ 大野市結とぴあ ・利用者別会議、モニタリング参加 49回 (令和2年度 28回)				
R3振り返り	一人暮らしで地域の関わりが薄く孤立して生活をしている人が増加していると感じた。自分で将来を見据えた生活設計(収支計画等)の理解が難しく、将来的に地域での生活が難しくなる可能性がある利用者に、今のうちから備えていけるように支援していく必要性を感じた。判断能力がなくなった場合は、関係機関と連携をとり本人にふさわしいサービス(成年後見制度等)につなぐ必要を感じた				



福祉総合相談事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	地域福祉推進事業	福祉総合相談事業	福祉総合相談事業	第1層(全市)
収入(円)	市受託金				計
	1,464,000				1,464,000
支出(円)	人件費	事業費			計
	225,000	1,239,000			1,464,000
事業概要	法律、労働、年金の専門相談を実施。一般相談は職員が随時対応し、専門機関につなげる				
事業報告	●年金労務相談9件(前年度 15件) 【毎月第1水曜日9:00～13:00 年間12回開催】				
	●法律相談119件(前年度 128件) 【毎月第2水曜日(13:30～16:30)第4水曜日(9:00～13:00) 年間24回開催】				
	●心配ごと相談21件(前年度 49件) 【月～金曜日平時の相談については職員が対応】				
	●夜間相談0件(前年度 0件) 【毎週水曜日18:00～20:00(要予約)】				
R3振り返り	心配ごと相談は常時職員が対応した。小口資金の貸し付け相談もあった。金銭的な相談だけではなく、生活や家族などの多問題相談が多く見られた				



相談室にパーテーションを設置しました

家族介護支援事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	地域福祉推進事業	家族介護支援事業	家族介護支援事業	第1層(全市)
収入(円)	市受託金				計
	27,000				27,000
支出(円)	人件費				計
	11,000				11,000
事業概要	介護の専門家を対象家庭に派遣し、介護の方法の指導や相談を行う				
事業報告	●依頼回数 7回 (そのうち2件については実施に至らず) ●内容 介護用品の使い方(ベッド、シャワーチェアー、浴槽台)、体の動かし方(体位交換、ポジショニング)、排せつ介助(ポータブルトイレの移動、おむつの当て方、交換)、介護食の作り方(ミキサー食、トロミの付け方)、食べさせ方、口腔ケア、介護に対しての不安の相談などに対応した				
R3振り返り	この事業を利用し、訪問サービスにつながったケースや訪問サービスの利用を開始してから支援事業につなげたケースもあった。 また、“介護”に対し不安から自信に変わった方、介護することに対し「無理はしなくていいんですね」と、穏やかに介護に向き合うことができた方などがおられた。 力任せに介護している方が多く、腰痛に悩まされていると言われる介護者に対し、どうすると腰に負担がかからず介護できるか、福祉用具をうまく使って腰痛防止の方法など教えてほしいと依頼される方が多かった				

訪問型サービスA事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	地域福祉推進事業	訪問型サービスA事業	訪問型サービスA事業	第1層(全市)
収入(円)	介護保険事業	利用料			計
	55,998	6,222			62,220
支出(円)	人件費	事業費			計
	37,358	11,971			49,329
事業概要	介護認定の対象とならないが、勝山市が家事の一部援助が必要と認めた方への必要な家事支援				
事業報告	軽度な家事援助(買い物・掃除)を訪問介護員が行った				
		令和3年度	令和2年度	令和元年度	
	利用延べ人数	12名	14名	48名	
	延べ訪問回数	51回	57回	198回	
R3振り返り	訪問型サービス対象者の中で、要介護状態になり、介護保険へ移行する利用者が発生したため、件数は昨年度と比較し、減になった。 コロナ禍で、感染予防に努めながら訪問を実施した				

ボランティアセンター運営事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	ボランティア活動事業	ボランティアセンター運営事業	ボランティアセンター事業	第1層(全市)
収入(円)	その他の収入	受取利息			計
	75,800	10			75,810
支出(円)	事業費				計
	315,588				315,588
事業概要	ボランティアセンター運営委員会の運営。企画・広報部会の開催。ボランティア活動団体、個人を活動先とマッチングする。依頼・活動相談、保険の窓口となる。また、ボランティア育成のための研修を実施する				
事業報告	●ボランティアセンター運営委員会 7回(内、全体会3回(書面1回含む)、企画部会3回、広報部会2回(書面1回含む)) ・勝山ボランティアセンター広報活動 ①コドンストラップ【500個作成、残309個】 1コ1,000円で販売 ②コドンクリアファイル【2000枚作成、残336枚】1枚100円で販売 ③コドンLINEスタンプ【1セット(40個)】120円で販売 ④コドンスタンプ作成(6種類)各小中学校にも活用してもらう ⑤コドンシール【5000枚作成、残4082枚】2枚1組100円で販売 ⑥コドン付箋【1000個作成、残577個】100円で販売 ・市民啓発推進事業 年6回「社協からこんにちは」紙上に情報掲載 ●福祉学習交流会→新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面交流会という形をとり、市内の小学4年生と障害がある方がスミエのモザイクアートに取り組むことでお互いを知り、理解する機会とした。また、制作を通じて繋がりを感じ、共に生きる力を感じてもらうことを目的とした。 ●ボランティア研修会→新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。代替で、ボランティア登録者795名に「社会参加状況に関するアンケート」を実施。447名から回答があった。(返信用封筒385名、Googleフォーム61名)。この結果を分析し、今後のボランティア活動に活かしていく。 ●収集活動 [エコキャップ]福井テレビへ運搬 年5回 運搬数約421,800個(ワクチン約491名分) [使用済みカラープリンターインク]買い取り業者へ輸送した [ベルマーク]ベルマークを収集している学校へ寄贈した [使用済み切手、使用済み電話番号カード、未使用文房具]市社協窓口で回収 ●ボランティア団体交流会の開催 11/26(金) 9団体30名・スタッフ3名参加 登録ボランティア団体同士のつながりの強化、また、コロナ禍における活動のヒントやボランティア自身の健康維持を目的に開催。市民交流センターにて、「コロナ前後の活動、今後の活動について」各団体3分程度の発表をしてもらった。その後、「ボランティア活動を続けていく為の秘訣と実践」というテーマで作業療法士坂本氏から講座や笑いヨガ、脳トレを行っていただいた。 ●第36回チャリティー映画会「お終活」3/19上映 <入場者数> 午前の部153名、午後の部104名、夕方の部48名 計305名				
R3振り返り	コロナ禍でも計画していた事業をある程度実施する事ができた。福祉学習交流会は今までと趣向を変え、非対面であっても繋がりを感じながら、ひとつの作品を作り上げる事ができた。ボランティア研修会は中止となったが、ボランティアを対象にしたアンケートを実施したところ半数以上の返答があり、一定の成果が得られた。次年度では、分析結果を基に、今後ボランティア活動を通して心豊かに元気になれる仕組みを構築していきたい				



ストラップ

預託配分事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	ボランティア活動事業	ボランティアセンター運営事業	預託配分事業	第1層(全市)
収入(円)	寄附金	利息分			計
	9,300	10			9,310
支出(円)	助成金				計
	0				0
事業概要	市民からの寄付金・物品の受入、払い出し。市内で火災が発生した際に見舞金を払い出す				
事業報告	●物品【預託】46件(紙おむつ、パット、下着、衣類、マスク、洗剤、米、フェイスタオル、食料品、コピー用紙、靴、あみかご、赤ちゃんのおむつ、ノート等) ●物品【払い出し先】44件(介護保険事業所、ヘルパー事業所、介護保険施設、生活困窮者、生活保護受給者、こども園等) ●金銭預託(ボランティア運営事業へ) 1件 9,300円 ●火事見舞金 0件 0円 ●次年度繰越金 前年度繰越金3,053,172円＋今年度預託金9,300円＝3,062,472円				
R3振り返り	寄付物品については、勝山市内の居宅介護支援事業所やホームヘルプサービス事業所などに声をかけ、幅広く払い出しをし、大切に活用していただくことができた。また、生活困窮者やひとり親世帯等にも払い出しし、喜ばれた				

つながりの輪づくり推進支援事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	ボランティア活動事業	つながりの輪づくり推進事業	すこやかフェスタ	第1層(全市)
収入(円)	県社協受託金				計
	99,000				99,000
支出(円)	事業費				計
	99,000				99,000
事業概要	ボランティアセンター運営委員会を中心につながりづくりを推進する。				
事業報告	・ボランティア運営委員会 企画部会で内容を検討した 部会開催 3回 ・市内の小学4年生と障害がある方が巨大モザイクアートに取り組んだ。楽しみながらお互いを知り、理解する機会となるようにした。 【制作方法】 ①市内全小学校、障害者就労支援事業所等にA5サイズのぬり絵を配布し、各自で塗っていただく ②ボランティアセンターがぬり絵を回収し、サンプラザ2階を会場に、勝山高校生協力のもと711匹の作品を組み合わせ1つの大きなモザイクアートを作り上げた。 ③12/20 サンプラザ正面玄関で、除幕式を開催。その際には制作風景を映像で流した。作品は一定期間展示し、一般開放した。 ・「社会参加状況に関するアンケート」の実施 ボランティア活動保険加入者(765名)にアンケートを送付。今年度初めてGoogleフォーム(インターネット回線)を活用。ペーパーでの返信と、Googleフォームを利用する2パターンで回答を得た。 <u>回答数447通</u>				
R3振り返り	今回の取り組みで対面交流以外の交流の方法が見えたとともに、今後の交流会の下地になるようなものができた。コロナ禍でも、つながりを切らずに活動ができる仕組みづくりが必要。例えば、ボランティアセンター運営委員会で、WEB会議などICTを取り入れられないか等を検討する必要がある(コロナ禍で、会議の中止を回避するため)。今回、アンケート調査方法にペーパーだけではなくGoogleフォームを初めて利用した。回答数のうち、Googleフォームの利用は58通あった。新たな方法への挑戦と手ごたえがあった				



スイミーモザイクアート 作品全体



除幕式の様子

地域いきいきボランティアポイント事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	ボランティア活動事業	地域いきいき ボランティアポイント事業	地域いきいき ボランティアポイント事業	第1層(全市)
収入(円)	市受託金				計
	1,125,500				1,125,500
支出(円)	人件費	事業費	助成金		計
	900,000	162,000	63,500		1,125,500
事業概要	高齢者の社会参加や生きがいづくりを促進するために、高齢者に関するボランティア活動をポイント制にし、集まったポイントを商品券などに換金する				
事業報告	●参加登録者数・・・男性／14名 女性／60名 合計／74名 ●ポイント引き換え者・・・49名 ●引き換え額・・・63,500円  ●主な活動内容・・・介護保険施設での活動（話し相手、レクリエーション等） 各地区サロンでの活動（企画、運営、話し相手等） 認知症カフェでの活動（サンプラザ内: まちなかcafe等）				
R3振り返り	コロナ禍で多くの登録者が活動の場を制限され、ポイントを集めることができなかった。しかし、昨年に比べ一人一人のポイント交換の額は少ないが、引き換え者数は大変増加した。「何か自分たちにできる活動はないか」とコロナ禍でも意欲を持って取り組まれている方が多かった。今後はより活動していただくため、新たなボランティア活動内容の検討も必要				

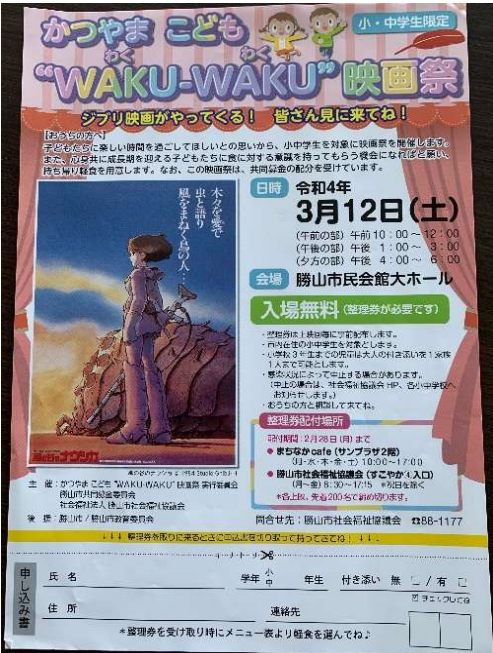
障害児・者福祉活動事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	共同募金配分金事業	障害児・者福祉活動事業	車両・介護機器等貸出事業	第1層(全市)
収入(円)	共同募金	負担金			計
	397,000	37,200			434,200
支出(円)	事業費	事務費			計
	323,479	39,100			362,579
事業概要	車椅子対応の福祉車両の貸出、福祉用具、介護機器の貸し出しサービス				
事業報告	●リフト付き車両貸出事業 軽自動車(タント)34件 ワゴン車(ハイエース)7件 合計41件 ・介護機器貸し出し事業 (新規貸出分のみ) 〈物品貸し出し〉介護用ベッド4件 車椅子34件 その他の介護機器1件 〈保有台数〉ベッド27台 車椅子48台 歩行器2台 〈廃棄・処分台数〉ベッド 5台 車椅子 17台 *ギャッジベッドは平成27年度より原則貸出中止(電動ベッドのみ貸出可) ●在宅障害者「ふれあいの部屋」開催時送迎支援 ●中途障害者 リラの会 4回開催 (15回開催予定の所、コロナ禍で11回は開催を見合わせた)   貸出し用軽自動車(タント)				
R3振り返り	リフト付き車両の貸し出し件数はコロナ禍前より減少した。利用者も外出を自粛していることもあるが、更なる事業周知の必要性を感じている。 介護機器の貸し出しについては、介護保険対象者以外でも、自費で介護用ベッドのレンタルが安価で出来るため、ベッドの貸し出し件数は減少し、需要がなくなっている。そのため、事業を見直し、理事会でも検討した結果、次年度よりベッドの貸し出しは終了する				

児童・青少年福祉活動事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	共同募金配分金事業	児童・青少年福祉活動事業	貸出・福祉教育推進事業	第1層(全市)
収入(円)	共同募金	負担金			計
	618,483	25,000			643,483
支出(円)	事業費	事務費	助成金		計
	359,570	5,000	390,000		754,570
事業概要	チャイルドシート・ジュニアシート・ベビーカーの貸し出し。学校の福祉学習時に福祉教育指導員・ゲストティーチャーを派遣し、身近なところでの「ふだんのくらしのしあわせ」を体験できる機会を提供する				
事業報告	●乳幼児用品貸し出し事業 チャイルドシート(6件)ジュニアシート(5件)ベビーカー(0件)貸出 (昨年度 チャイルドシート(8件)ジュニアシート(6件)ベビーカー(0件)貸出)  チャイルドシート  ジュニアシート  ベビーカー ●福祉担当教諭連絡会 密を避けるため学校を個別訪問。小学校10校、中学校3校を回り、福祉教育の取り組みなど説明や事例の紹介を行った ●依頼があった小中学校へ出向き、地域共生社会づくりに向けて取り組めるプログラムの打ち合わせを担当教諭と綿密に行った ●小中学校の授業やクラブ活動へ延べ34名の福祉教育指導員とボランティア、ゲストティーチャー、地区社協コーディネーター、職員等の派遣を行い活動した ・福祉の学習と高齢者理解のため、シニア体験、アイマスク、赤ちゃんお世話体験・妊婦体験等の疑似体験を行った。これらを通して「お互い様の関係づくり、人にやさしいまちづくり」を考えるきっかけとした。また、コロナ禍のため地域との交流ができない中、地域サロンで活用できるように、児童生徒が「フレイル予防体操」などを収録したDVDを作成し、地域に提供した ●学校との年間打ち合わせ回数 22回、年間授業・クラブ活動への支援回数 16回 ●赤い羽根共同募金の配分を受け市内10小学校、3中学校へ配分した(1校30,000円)				
R3振り返り	福祉担当教諭連絡会は各学校へ出向き個別に昨年度の活動状況紹介や、今年度についての打ち合わせ等を行った。コロナの感染状況により学校へ出向くことも難しい状況であったが、社会情勢を見ながらゲストティーチャーとの交流、認知症についての学び、地域の保健推進委員会を中心に妊婦・お世話体験等、様々な社会資源を活用し事業を実施することができた。疑似体験だけで終わるのではなく、“ふくし”について深い学びができた				

福祉育成・援助活動事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲																																							
	法人運営事業	共同募金配分事業	福祉育成 援助活動事業	すこやかフェスタ	第1層(全市)																																							
収入(円)	共同募金	過年度収入			計																																							
	1,069,000	148,554			1,217,554																																							
支出(円)	事業費	助成金	固定資産		計																																							
	585,231	50,000	577,000		1,212,231																																							
事業概要	主にすこやかフェスタを開催																																											
事業報告	●すこやかフェスタ開催事業 → 新型コロナウイルス感染防止のため中止 ●「かつやまこども”WAKU-WAKU”映画祭の開催」 スタジオジブリから低額での作品提供を受けることができ、実行委員会を設置し、企画・運営を進めた。市内小中学生を対象とし、ジブリ映画「風の谷のナウシカ」を上映した。子ども見守り宅食支援事業(配食)と併せて実施した。																																											
	かつやま こども”WAKU-WAKU”映画祭 『風の谷のナウシカ』 日時：令和4年3月11日(土) 場所：勝山市民会館大ホール <table><thead><tr><th>●午前の部</th><th></th><th></th><th></th></tr><tr><th></th><th>児童</th><th>付き添い</th><th>小計</th></tr></thead><tbody><tr><td>申込数</td><td>33</td><td>15</td><td>48</td></tr><tr><td>当日参加数</td><td>27</td><td>11</td><td>38</td></tr><tr><td>配食のみ</td><td>3</td><td></td><td></td></tr></tbody></table><table><thead><tr><th>●午後の部</th><th></th><th></th><th></th></tr><tr><th></th><th>児童</th><th>付き添い</th><th>小計</th></tr></thead><tbody><tr><td>申込数</td><td>25</td><td>7</td><td>32</td></tr><tr><td>当日参加数</td><td>23</td><td>7</td><td>30</td></tr><tr><td>配食のみ</td><td>1</td><td></td><td></td></tr></tbody></table> * 実行委員会：2回開催、当日9名協力 					●午前の部					児童	付き添い	小計	申込数	33	15	48	当日参加数	27	11	38	配食のみ	3			●午後の部					児童	付き添い	小計	申込数	25	7	32	当日参加数	23	7	30	配食のみ	1	
●午前の部																																												
	児童	付き添い	小計																																									
申込数	33	15	48																																									
当日参加数	27	11	38																																									
配食のみ	3																																											
●午後の部																																												
	児童	付き添い	小計																																									
申込数	25	7	32																																									
当日参加数	23	7	30																																									
配食のみ	1																																											
R3振り返り	すこやかフェスタが2年続けて中止となり、寂しさが残った。しかし、スタジオジブリからの提案を活用し、すこやかフェスタから方向を転換した。コロナ禍で行動制限を受けている子どもが楽しく参加できるように感染症対策をしながら無料で映画上映を企画し併せて食の支援としてお弁当の配食を行った																																											

歳末たすけあい配分金事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	共同募金配分事業	歳末たすけあい配分金事業	歳末たすけあい配分金事業	第1層(全市)
収入(円)	共同募金				計
	2,174,879				2,174,879
支出(円)	事業費	配分金事業			計
	335,366	1,587,822			1,923,188
事業概要	民生委員に要援護世帯調査を依頼、準要保護世帯については教育委員会に協力を要請を行い、対象となる援護を要する世帯から申請をもらい、個別配分の可否を委員会で審査、可世帯に対し個別配分を行う。その他の配分先は、「歳末たすけあい配分委員会」で検討、決定される				
事業報告	配分委員会【1回目】10月25日【2回目】11月29日				
		対象者	人数	金額	備考
	個別配分	要援護世帯	148世帯	1,480,000	@10,000
		遺児	12名	60,000	図書券@5,000
		低所得者等支援		30,000	生活困窮者等食糧備蓄
		物品 マスク		152,550	300箱(独居世帯1箱・複数世帯2箱)
		一人親世帯食料配分		47,822	野菜セット
	事業費配分	事務経費及び予備費・広告等		152,816	切手・封筒購入、事務用品費等
	合 計			1,923,188	
	・「子ども見守り宅食支援事業」とコラボレーションし、一人親世帯へ食料配分を行った				
					
	一人親世帯食料配分		低所得者支援(食糧備蓄)		
R3振り返り	個別配分は要援護世帯1世帯につき10,000円の現金とマスクを配分(独居世帯1箱・複数人世帯2箱)した。個別配分は申請式だが、個人情報聞き出しにくい時代となり、十分な聞き取りができない結果、個別配分の必要性が審査委員会では検討しづらくなっている。 子ども見守り宅食支援事業とコラボレーションし、一人親世帯に食料配分(野菜セット)を配分することができた。「お米がありがたい」など喜ばれた。今後、低所得者の支援が増加することを見込んで、食糧備蓄を増やした				

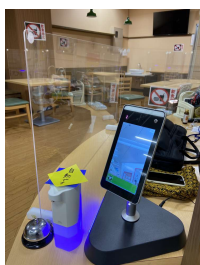
ボランティア活動育成事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	共同募金配分事業	ボランティア活動育成事業	ボランティア活動育成事業	第1層(全市)
収入(円)	共同募金				計
	275,000				275,000
支出(円)	事業費				計
	163,330				163,330
事業概要	ボランティアセンター事業の一環。ボランティア活動者(登録者)等を対象にボランティア活動や地域の貢献について、学びの場の提供				
事業報告	●ボランティア研修会 新型コロナウイルス感染防止のため中止したが、「社会参加状況に関するアンケート」をGoogleフォームと紙面にて実施した。ボランティア登録をされている方795名に向けてアンケートを送付し、447名の方から回答をいただいた。いただいた回答を今後のボランティア活動に反映させていく予定。 ●ボランティア団体交流会 11/26 市民交流センター 9団体30名の方に参加していただき、各団体の活動内容を発表してもらった。また、坂本作業療法士を講師に迎え、講座、笑いヨガ、脳トレを行った。参加者からは他団体の活動内容が知れて良かったという声があった。   ●福祉教育担当教諭連絡会 小学校10、中学校3 それぞれ個別訪問し、福祉教育の取り組み、助成金の案内を行った。 ●福祉教育担当教諭研修会 新型コロナウイルス感染防止のため中止。初の試みとして、福祉教育担当教諭に福祉教育を振り返るため、アンケートを実施した。いただいた回答を集計し、次年度の福祉教育に活用できるよう、冊子にまとめていく予定。				
R3振り返り	ボランティア研修会は、多くの方が参加し、各団体がコロナ禍での取り組み発表をすることで、他団体の活動を知れてよかったという声があり、有意義なものにできた。 福祉教育は、年度始めに各学校の担当教諭と打ち合わせを行ったことでスムーズに活動を進められた学校もあった。担当教諭の振り返りからは「準備して活動を進めていくことができた」「流れを組み立てていくことの大切さを再認識した」という声があった。 ボランティア研修会、福祉教育担当教諭研修会は新型コロナウイルス感染各段予防のため集合型を中止したが、それぞれにアンケートをとり意識調査を行うことができた				

法外・災害援護配分金事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	共同募金配分事業	法外・災害援護 配分金事業	法外・災害援護 配分金事業	第1層(全市)
収入(円)	共同募金				計
	30,000				30,000
支出(円)	助成金				計
	0				0
事業概要	行路者・火災被災者へ、見舞金等を渡す				
事業報告	●行路者援助(来所する行路者に対し、電車賃・バス代程度を渡す):0件 ●火災見舞(市内の火災被災者に対する見舞金):0件				
R3振り返り	今期、実績なし				

まちなかCafé事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲																																																																																																																																							
	法人運営事業	共同募金配分事業	まちなかCafé 運営事業	まちなかCafé 運営事業	第1層(全市)																																																																																																																																							
収入(円)	共同募金				計																																																																																																																																							
	1,134,000				1,134,000																																																																																																																																							
支出(円)	人件費	事業費			計																																																																																																																																							
	50,000	534,093			584,093																																																																																																																																							
事業概要	社会的孤立感の解消及び誰もが気軽に立ち寄れる場所として、勝山サンプラザ内に居場所を設置し、運営する。また、社会福祉法人が実施する地域貢献事業としても位置付ける																																																																																																																																											
事業報告	・まちなかcafé運営委員会の開催 4/23、8/3 ・サンプラザさんによる環境整備 手洗い場の設置 ・新型コロナウイルス感染症対策を講じて 6/14～ リニューアルオープン 令和3年度 まちなかCafé利用者数 <table><tr><th></th><th>月</th><th>日数</th><th>総計</th><th>男性</th><th>女性</th><th>子供</th><th>高校生</th><th>中学生</th></tr><tr><td>1</td><td>4月</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>2</td><td>5月</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>3</td><td>6月</td><td>11</td><td>122</td><td>28</td><td>94</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>4</td><td>7月</td><td>23</td><td>300</td><td>115</td><td>184</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>5</td><td>8月</td><td>22</td><td>300</td><td>115</td><td>171</td><td>8</td><td>6</td><td>0</td></tr><tr><td>6</td><td>9月</td><td>22</td><td>300</td><td>108</td><td>192</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>7</td><td>10月</td><td>22</td><td>296</td><td>108</td><td>188</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>8</td><td>11月</td><td>20</td><td>277</td><td>105</td><td>171</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>9</td><td>12月</td><td>20</td><td>258</td><td>102</td><td>155</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>10</td><td>1月</td><td>20</td><td>258</td><td>99</td><td>159</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>11</td><td>2月</td><td>20</td><td>315</td><td>116</td><td>194</td><td>3</td><td>0</td><td>2</td></tr><tr><td>12</td><td>3月</td><td>22</td><td>344</td><td>152</td><td>192</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>総計</td><td>男性</td><td>女性</td><td>子供</td><td>高校生</td><td>中学生</td></tr><tr><td>1ヶ月 平均</td><td>291.5</td><td>202</td><td>2,770</td><td>1,048</td><td>1,700</td><td>12</td><td>8</td><td>2</td></tr></table> ・年間202日開店 延べ2,770名利用 ・ボランティア活動者 3名 延べ活動回数 99回 体温計の設置  手洗い場  アクリルパーテーション 						月	日数	総計	男性	女性	子供	高校生	中学生	1	4月	0	0	0	0	0	0	0	2	5月	0	0	0	0	0	0	0	3	6月	11	122	28	94	0	0	0	4	7月	23	300	115	184	0	1	0	5	8月	22	300	115	171	8	6	0	6	9月	22	300	108	192	0	0	0	7	10月	22	296	108	188	0	0	0	8	11月	20	277	105	171	1	0	0	9	12月	20	258	102	155	0	1	0	10	1月	20	258	99	159	0	0	0	11	2月	20	315	116	194	3	0	2	12	3月	22	344	152	192	0	0	0				総計	男性	女性	子供	高校生	中学生	1ヶ月 平均	291.5	202	2,770	1,048	1,700	12	8	2
		月	日数	総計	男性	女性	子供	高校生	中学生																																																																																																																																			
	1	4月	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																			
	2	5月	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																			
	3	6月	11	122	28	94	0	0	0																																																																																																																																			
	4	7月	23	300	115	184	0	1	0																																																																																																																																			
	5	8月	22	300	115	171	8	6	0																																																																																																																																			
	6	9月	22	300	108	192	0	0	0																																																																																																																																			
	7	10月	22	296	108	188	0	0	0																																																																																																																																			
	8	11月	20	277	105	171	1	0	0																																																																																																																																			
	9	12月	20	258	102	155	0	1	0																																																																																																																																			
	10	1月	20	258	99	159	0	0	0																																																																																																																																			
	11	2月	20	315	116	194	3	0	2																																																																																																																																			
	12	3月	22	344	152	192	0	0	0																																																																																																																																			
				総計	男性	女性	子供	高校生	中学生																																																																																																																																			
	1ヶ月 平均	291.5	202	2,770	1,048	1,700	12	8	2																																																																																																																																			
	R3振り返り	まちなかcafé運営委員会を開催し、ようやく再オープンすることができた。飲食を禁止するなど、新型コロナウイルス感染症対策を講じているため、閉店以前の賑わいは戻っていないが、憩いの場として少しずつ、利用者が増加し始めた。また、開店に伴い、困りごとなどにも身近で対応できるようになった																																																																																																																																										

生活福祉資金貸付事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	資金貸付事業	生活福祉資金貸付事業	生活福祉資金貸付事業	第1層(全市)
収入(円)	県社協受託金				計
	1,308,000				1,308,000
支出(円)	人件費	事業費			計
	913,000	395,000			1,308,000
事業概要	低所得者や高齢者、障害者の自立した生活を経済的に支えるとともに、世帯の福祉及び社会参加の促進を図る				
事業報告	[生活福祉資金] ●貸付相談件数 3件(前年度 相談件数 10件) ※生活困窮者自立支援事業担当職員とも連携して相談に対応した ●新規貸付件数 0件 ●償還完了件数 2件(教育支援資金 2件) ●延滞利子支払免除件数 0件 [コロナ特例貸付(緊急小口資金・総合支援資金)] ●緊急小口資金 12件(貸付総額:2,200,000円) ●総合支援資金(初回) 14件(貸付総額:5,750,000円) ●総合支援資金(再) 2件(貸付総額:1,050,000円) ●貸付に至らなかった相談 14件				
R3振り返り	特例貸付は、R2年度実績より減少にはなった。しかし、R3年度も新型コロナウイルスの影響を受け、必要とされている方はおられ、貸付を行った。 生活福祉資金、特例貸付共に、貸付の妥当性を確認するため、相談者には自ら収支表を記入していただき、収支を整理することで「気づき」を促し、家計を見直すきっかけを作った。結果、14件は貸付に至らなかった。 特例貸付は、国の施策により、延長措置が続けられている				



小口資金貸付事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業タイトル	事業展開範囲
	法人運営事業	資金貸付事業	小口福祉資金貸付事業	小口福祉資金貸付事業	第1層(全市)
収入(円)	償還金				計
	223,000				223,000
支出(円)	事業費	貸付金			計
	1,428	208,000			209,428
事業概要	当座の資金不足により生活が行き詰った方へ小口で一時資金を貸し付ける				
事業報告	延べ件数 ●貸付件数 16件 208,000円 ●返済金 47件 223,000円 ●貸付残のある方 18件 382,000円				
R3振り返り	貸付と償還を繰り返す方には、生活困窮者自立支援センター相談員と共に関わった。相談時には必ず「収支表を自ら記入する」ことをルール化し、収支に対する「気づき」を促した。また、「借用書」の見直しを行った。未返済の方へは督促状を送付し、返済については丁寧な相談対応に努めた				

生活困窮者自立支援事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	生活困窮者自立支援事業	生活困窮者自立支援事業	生活困窮者自立相談支援事業	第1層(全市)
収入(円)	市受託金				計
	10,600,000				10,600,000
支出(円)	人件費	事業費	事務費	退職積立金	計
	9,524,000	342,000	58,000	676,000	10,600,000
事業概要	生活困窮者支援法に基づき、生活に困っている人からの相談を受け、抱える課題を把握し、本人の気持ちに寄り添いながら自立した生活を支える。また、必要な人には計画を立てて支援を実施する。関係機関や市役所内の各部署の連携が図れるように働きかける				
事業報告	生活保護に至らないようにするために生活困窮者に対する「第2のセーフティネット」として、包括的に支援を実施した。また、生活困窮者の早期把握や見守りのための地域ネットワークの構築、働く場を広げていくことに努めた ●必要なアセスメント、プラン兼事業等利用申込書(案)を本人と共同で作成、支援調整会議で支援内容について検討、評価を行いながら包括的・継続的な相談支援 ・新規相談 23件 ・相談件数 述べ315件 ・プラン作成 9件 ・就労者数 9件 ・生活保護につないだケース 3件 ・必要時に貸付相談へつなぎ 小口福祉資金 11件、生活福祉資金コロナ特例貸付 6件 ・支援調整会議 5回、支援会議 1回 ・食糧配分(歳末助け合い募金備蓄食品・県民生協フードドライブ食糧・寄付物など) 多数    ●広報・啓発事業の実施 ・社協広報誌「社協からこんにちは」R3.11月発行 ・令和3年度保護司会第2期地域別定例研修会 11月29日15:00～ ・県立大学実習生受け入れ 9月29日・10月27日13:00～16:00 ●関係機関との連携 ・法テラス機関説明 7月27日15:30～ ・令和3年度福井地方協議会 11月26日14:00～16:00 ・生協フードドライブ等に関する話し合い 2月16日10:00～11:00 ●相談員の研修 ・第8回生活困窮者自立支援全国交流大会 オンライン研修 1名 - 全体会 11月13日(土)10～12時、13～15時30分 - 分科会 11月14日(日)10～12時、14～16時、11月20日(土)10～12時、14～16時、11月21日(日)10～12時、11月23日(火・祝)10～12時、14～16時 ・令和3年度生活困窮者自立支援制度人材養成研修 相談支援員養成研修 1名 11月26日9:50～17:30 オンライン研修 ・令和3年度生活困窮者自立支援制度におけるブロック別研修 1名 12月16・17日10:00～16:40 オンライン研修				
R3振り返り	コロナ禍による影響か、働き世代からの相談が多かったが、相談件数は横ばいだった				

生活困窮者自立支援・就労準備支援事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	生活困窮者 自立支援事業	就労準備支援事業	就労準備支援事業	第1層(全市)
収入(円)	市受託金				計
	912,000				912,000
支出(円)	人件費	事業費	退職積立金		計
	600,000	312,000	0		912,000
事業概要	「社会との関わりに不安がある」、「他の人とコミュニケーションがうまくとれない」など、直ちに就労が困難な方に6カ月から1年の間、プログラムにそって、一般就労に向けた基礎能力を養いながら就労に向けた支援や就労機会の提供を行う				
事業報告	自立相談支援機関のアセスメントに基づき、就労準備支援の必要性がある方が対象となる ●アセスメントを行い、就労準備支援プログラム作成、月1回程度の振り返り評価を行いながら1年を基本として実施。 ・支援内容:日常生活自立に関する支援、社会生活自立に関する支援、就労自立に関する支援 ハローワークへの同行、就労後の定着支援、他関係機関との連携など ・就労準備支援室を(金)13～17時開設 ・事業実施 2件 ●支援員研修 ・第8回生活困窮者自立支援全国交流大会 オンライン研修 1次 全体会 11月13日(土)10～12時、13～15時30分 分科会 11月14日(日)10～12時、14～16時 11月20日(土)10～12時、14～16時 11月21日(日)10～12時 11月 23日(火・祝)10～12時、14～16時				
R3振り返り	事業を利用することで相談者の良い点、改善できる点などを把握することができた。それらが見える化することで、相談者本人が気づき、自分の特性にあった就労へ導くことができた				



生活困窮者自立支援・家計改善支援事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	生活困窮者自立支援事業	家計改善支援事業	家計改善支援事業	第1層(全市)
収入(円)	市受託金				計
	3,600,000				3,600,000
支出(円)	人件費	事業費	事務費	退職積立金	計
	3,074,000	181,000	19,000	326,000	3,600,000
事業概要	自立相談支援機関において、経済的な問題に背景がある相談者に対して家計の視点から相談支援を行う。家計改善・家計再生プランを作成し、自ら家計を管理する意欲、能力を高め、経済的困窮より脱却できるよう支援していく				
事業報告	自立相談支援機関のアセスメントに基づき、家計改善の必要性があると支援調整会議で検討された方を相談対象とする。 ●アセスメントを行い、家計再生プラン(案)を本人と共同で作成し、支援調整会議で支援内容について検討し支援決定を受け、約1年間を基本として相談を実施。 ・支援内容:家計計画表、キャッシュフロー表を作成し家計の見える化を行う 滞納(家賃、税金、公共料金など)の解消や各種給付制度利用に向けた支援 債務整理に関する支援(多重債務者相談窓口との連携) 貸付けのあっせん など ★制度説明・提案 4件 ★家計再生プラン 0件 ★再プラン作成 0件 ●支援員研修 ・第8回生活困窮者自立支援全国交流大会 オンライン研修 1名 全体会 11/13 分科会 11/14、11/20、11/21、11/ 23 ●関係機関との連携 ・日常生活自立支援事業 制度紹介1件				
R3振り返り	繊細な部分でもある家計相談において収支改善が必要と考えられる方へ提案(4名に提案)をしても、改善したいという意欲的な方がいなかったため制度の利用に結び付かなかった				



子ども見守り宅食支援事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営	生活困窮者自立支援事業	生活困窮者自立支援事業	子ども見守り宅食支援事業	第1層(全市)
収入(円)	市受託金				計
	8,313,000				8,313,000
支出(円)	人件費	事業費	事務費		計
	4,405,000	3,897,000	11,000		8,313,000
事業概要	勝山市福祉・児童課と連携をとり、市内の気がかりな子どもがいる家庭等に対し、食事や食材の提供を通じて、子どもの安否確認など子どもや家庭の状況把握を関係機関と協同で行った。また、心身共に成長期を迎える子どもたちが食によってつながる楽しさや暖かさを感じていただく機会とするため、かつやまこども“WAKU-WAKU”映画祭 参加者やひとり親世帯への食糧配分を行った				
事業報告	事業内容		実施内容	食糧配分数	
	・要保護児童対策地域協議会にて気がかりな世帯9世帯に対し、月2回食糧配分をチャイルドパートナーが行い、家庭の状況を確認した。		毎月第2・4月曜日 17:00～19:00 (祝日の場合は火曜日または第3・5月曜日)	延べ 195世帯 774食	チャイルドパートナーによる活動 延べ 16回67名
	・チャイルドパートナー養成研修会 8月2日(月)13:00～14:00 講師:越前市「みんなの食堂」実行委員会 野尻富美氏 参加者:8名、事務局3名 ・チャイルドパートナー5名 委嘱 ・チャイルドパートナー連絡会 参加者:延べ21名 開催:第2月曜日16:00～17:00(10～3月)				 
	事業内容		実施内容		
事業報告	かつやまこども“WAKU-WAKU”映画祭に参加した小中学生へ、実行委員より食糧配分を行った。		3月12日(土) 午前の部:10:00～ 午後の部:13:00～	延べ57食	
	・かつやまこども“WAKU-WAKU”映画祭実行委員会 第1回:1月12日(水)18:00～19:30 第2回:3月8日(火)15:30～16:20				
	事業内容		実施内容		
	ひとり親家庭へ、主任児童委員より食糧配分を行い、取りに来た家庭の聞き取りを行った。		3月23日(水) 24日(木) 25日(金) 29日(火) 16:00～18:00 3月26日(土) 9:00～17:00	延べ102世帯	 
R3振り返り	・上記期間中に来所できなかった世帯へ食糧配送 28世帯				
	勝山市が決定した気がかりな子がいる家庭へ食の提供をきっかけに訪問し、子どもや両親、家庭の変化を確認することができた。また、コロナ禍で自粛が続く中、子ども映画祭を企画し参加した子どもへお弁当などを提供し、喜ばれた。さらには、ひとり親家庭(102世帯)へ食糧を取りに来ていただき、対面で話すことにより、家庭状況を確認し、新たに気がかりな家庭を把握することができた。いずれの活動も、チャイルドパートナー、主任児童委員の活躍が大きかった				

生活支援体制整備事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	生活支援体制整備事業	生活支援体制整備事業	生活支援体制整備事業	第1層(全市)
収入(円)	市受託金				計
	9,616,000				9,616,000
支出(円)	人件費	事業費	事務費	助成金	計
	1,342,000	658,000	56,000	7,560,000	9,616,000
事業概要	助け合う地域づくりに向け関係機関ネットワーク会議の開催、生活支援コーディネーターの設置、地域の課題解決の場と新たなサービスを構築をする。併せて、まちなかCaféを核にした支援を考える				
事業報告	【1層の生活支援コーディネーターの活動】 ▶一人暮らし高齢者、高齢者世帯の生活支援サービスのコーディネート ▶地域いきいきサポーター養成講座 8月28日 10名受講 ▶地域個別支援 253回 ▶関係機関とのネットワークづくり (1)勝山市総務課・地域包括支援センター、民生委員、ケアブレイクかっちゃま (2)地域ケア個別会議への参画 年2回 (3)生活支援コーディネーター情報交換会(北陸3県) 2月17日(オンライン) ▶まちなかcaféの運営(ページに掲載) ▶買物支援体制の構築 平泉寺地区、村岡地区「買い物支援実行委員会」立上げ支援 - 買物支援事業研修会の開催 2回 - 買物支援事業情報交換会の開催支援 1回(平泉寺・村岡) - 買物支援事業視察研修会の開催支援 1回(福井市安居地区) ▶勝山高校生発案「まちなかcaféでハーバリウム体験講座」企画・運営支援 8/19・20 ▶市社協主催研修会「秋(空き)セミナー」11/12 2回 161名参加  ハーバリウム体験講座 ← →   買物支援事業研修会 (オンライン) 【2層の生活支援コーディネーターとの連携した活動】 ▶ふれあいサロン、給食サービス、地域ぐるみ雪下ろし事業の実施や取りまとめ ●地区ごとの研修等の開催 講師:ご近所福祉クリエイター 酒井 保 氏 ・北郷、荒土、鹿谷地区 3/4 35名参加 ・遅羽、猪野瀬地区 3/5 43名参加 ・野向地区 3/5 17名参加 ●集落単位研修会 年間6回 ●生活支援ネットワーク会議の開催(地区社協コーディネーター連絡会) 年12回 【その他】 ・各地区社協、各区長会への事業説明 ・コーディネーター自主研修 認知症について VR体験 2/6				
R3振り返り	こんな時だからこそ…という課題を今年度も投げかけ続けた。地域で考える機会が増し、昨年度よりは活動が増加した。地域課題も様々で、地域ごとで取り組む内容の違いが大きくなりつつある。市社協は、トップダウンよりもボトムアップ方式をより徹底し、「地域が考えること(やりたいこと・目指したいこと)」に寄り添い続けることができた				

老人ホームヘルプサービス事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲																	
	介護保険サービス事業	介護保険サービス事業	老人ホームヘルプ事業	老人ホームヘルプ事業	第1層(全市)																	
収入(円)	介護保険	利用料	その他の事業	禍年度収入	その他の活動																	
	27,005,620	3,348,140	97,888	5,000																		
					計																	
					30,456,648																	
支出(円)	人件費	事業費	事務費	固定資産	退職積立金																	
	20,626,619	1,802,358	194,862	0	1,111,000																	
	拠点区分繰入金				計																	
	5,473,000				29,207,839																	
事業概要	介護保険法に基づく訪問介護事業の実施(家事援助、身体介護等)																					
事業報告	<table><tr><th>年度</th><th>令和3年度</th><th>令和2年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>派遣利用者数</td><td>525人</td><td>545人</td><td>560人</td></tr><tr><td>派遣回数</td><td>7836回</td><td>7681回</td><td>7131回</td></tr><tr><td>稼働時間</td><td>5114時間17分</td><td>5148時間20分</td><td>5092時間55分</td></tr></table>				年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	派遣利用者数	525人	545人	560人	派遣回数	7836回	7681回	7131回	稼働時間	5114時間17分	5148時間20分	5092時間55分	利用者の自立を目的に身体介護、生活援助を行った。 訪問依頼は朝・夕に集中することが多い。 今まで長期に利用のあった方も高齢となり、入院・入所する方が増加した。	
	年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度																		
	派遣利用者数	525人	545人	560人																		
	派遣回数	7836回	7681回	7131回																		
	稼働時間	5114時間17分	5148時間20分	5092時間55分																		
	内部研修 年 11回 実施																					
	4月	倫理要領と法令順守について																				
		老計10号		ヘルパーの仕事の基準時間を確認																		
		緊急時の連絡網の作成		緊急連絡網(ヘルパーグループLINE)を活用して行う																		
	5月	R3事業計画																				
		接遇について																				
	6月	感染予防について		厚生労働省の配信動画を視聴し																		
		衛生管理について		全員で確認する																		
	7月	手順書見直し		誰もがそのケースに当たっても																		
		見取り図確認		仕事がスムーズにできるために																		
	9月	火災予防について(ヘルパーが出来る事)		DVD視聴後意見交換																		
		連絡網について		LINEからエルガナに移行する																		
	10月	救急法		消防署																		
	11月	秋(空き)セミナー		地域で暮らし続けるためにヘルパーとしてできること																		
	12月	認知症の方のBPSDを理解する		録画配信研修																		
	2月	障害児を支援するために		県ホームヘルパーサービス事業者協議会主催の研修を受講(リモート)																		
		災害時も日常も安心安全な地域社会		リモート研修																		
	3月	1年のまとめ																				
	外部研修 2回				駐車場使用																	
	12月	県ホームヘルプサービス事業者協議会事業者対象セミナー		加算・サービス内容・労務管理についての質疑応答(リモート) 2名		ローソン旭町店 1月/5回																
		県ホームヘルプサービス事業者協議会従事者対象セミナー		障がい者を支援するために(リモート) 7名		2月/5回																
	2月					村岡公民館 1月/1回																
				南幼稚園 2月/1回																		
				JA福井勝山南支店 2月/2回																		
※降雪が続き、利用していた駐車スペースが使用不能となったが、県(コンビニ)、市(公共施設)の働きかけでスムーズに駐車し、訪問することができた。																						
R3振り返り	年間通して感染予防に努めた。スマホを活用し会議や、利用者の連絡を行う体制づくりを行い、スムーズにサービスを提供できた。施設でのコロナ感染に伴い、施設サービスが利用不能となり、急遽在宅での支援依頼が多かった																					

あんしんサービス事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲																
	介護保険サービス事業	介護保険サービス事業	老人ホームヘルプ事業	あんしんサービス事業	第1層(全市)																
収入(円)	事業収入				計																
	355,000				355,000																
支出(円)	人件費				計																
	280,000				280,000																
事業概要	施設利用の方が一時帰宅されたとき、または、介護保険対象外の方や、障害サービスで認められてないサービスを希望される方に対して、30分1,000円でサービスを提供する																				
事業報告	支援内容 ペットの世話(介護計画に基づく) 衣替え 安否確認(利用者の家族への支援) 通院介助(介護保険報酬対象外の部分) 買い物支援(障害者) 実績表 <table><tr><td>年度</td><td>令和3年度</td><td>令和2年度</td><td>令和元年度</td></tr><tr><td>派遣利用者数</td><td>40人</td><td>40人</td><td>30人</td></tr><tr><td>派遣回数</td><td>324回</td><td>206回</td><td>154回</td></tr><tr><td>稼働時間</td><td>153時間07分</td><td>172時間25分</td><td>110時間30分</td></tr></table>					年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	派遣利用者数	40人	40人	30人	派遣回数	324回	206回	154回	稼働時間	153時間07分	172時間25分	110時間30分
年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度																		
派遣利用者数	40人	40人	30人																		
派遣回数	324回	206回	154回																		
稼働時間	153時間07分	172時間25分	110時間30分																		
R3振り返り	年間通して感染予防に努めた。障害福祉サービスにつながるまでの間の利用や、介護保険では対応外となるサービスについてあんしんサービスを提供した。 利用者が生きがいとしてペットを飼育しているが、高齢でペットの世話が十分に出来なくなった。本人の意思を尊重し、本人にとって家族同然のペットの世話をあんしんサービスで行い、本人の生きがいをサポートし続けた																				

介護予防支援事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	介護保険サービス事業	介護保険サービス事業	介護予防支援	予防ケアマネジメント	第1層(全市)
収入(円)	介護保険				計
	995,880				995,880
支出(円)	拠点区分繰出し	階層区分繰出し			計
	315,880	680,000			995,880
事業概要	介護保険法に基づく介護予防・日常生活支援総合事業に基づく予防ケアマネジメントの実施				
事業報告	・介護予防計画作成数 172件(前年比 -104件) 1件 4,380円 ・総合事業計画作成数 51件(前年比 -51件) 1件 4,380円 (計画作成初回加算 1件 3,000円) [件数の減少理由] 令和2年度に職員1名退職し、抱えていた件数を勝山市包括支援センターに移管したため、今年度の件数は大幅に減少した				
R3振り返り	コロナ禍であったが、利用者の状態が大幅に悪化するケースはなかった。しかし、事業所の臨時休業などで、常に状況が変化し、その対応に終始追われた。事業所が休業することで、本人や家族が不安な状況下にあったが、支援者として寄り添い続けた。また、利用者自身の状態悪化の予防につながる支援ができた				

介護給付事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	介護保険サービス事業	介護保険サービス事業	介護給付	介護給付	第1層(全市)
収入(円)	都道府県補助	介護保険	その他の収入	階層区分収入	計
	423,000	17,805,350	3,000	680,000	18,911,350
支出(円)	人件費	事業費	事務費	固定資産	退職積立金
	14,605,000	1,973,371	129,207	387,400	1,424,000
	長期前払費用				計
	362,010				18,880,988
事業概要	介護保険法に基づき、利用者が、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう、利用者の選択に基づき、適切な居宅介護支援サービスを提供する				
事業報告	●介護保険計画作成数 1,353件(前年比 -37件) (要介護1～2/879件 * ケアプラン作成費 1件:10,760円) (要介護3～5/474件 * ケアプラン作成費 1件:13,980円) ●令和2年度の1名退職に伴い、専従ケアマネが減となり、年度当初の4月～12月までは特定事業所加算(Ⅲ)(加算額:1件 3,090円)の算定を外さざるを得なかった。しかし、10月に新規職員採用ができたことで、令和4年1月分請求より特定事業所加算(Ⅲ)を収得した。これにより、3月からは昨年より微増ではあるが収益が増加することができた ●今年度当初は職員減に伴い、減算予防のため、事務職員を配置することで、居宅介護支援費Ⅱを収得し、1人当たりの対応件数35件から40件へと引き上げた ●令和4年には業務のICT化のため、各職員にタブレットを配置したことで、業務時間の短縮・スピーディな対応が出来るようになった				
R3振り返り	年度初めは3名体制で、退職者の件数も対応するなど業務量が大幅に増加した。そのため、事務職員の配置、業務のICT化、新規職員採用を行い、カバーすることができた。 コロナ禍で、施設や病院等の面会制限があり、本人と面会することができず、状況がわからない中での対応に苦慮する場面が多くみられた。 また、コロナ禍で、事業所の臨時休業や利用制限などが頻回に発生し、その対応に苦慮する場面が増加した				

要介護認定調査事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	介護保険サービス事業	介護保険サービス事業	要介護認定調査事業	要介護認定調査	第1層(全市)
収入(円)	介護保険受託				計
	193,300				193,300
支出(円)	拠点区分支出				計
	175,000				175,000
事業概要	介護保険法に基づき、要介護認定調査対象者を調査し、市へ調査票を提出する				
事業報告	●介護認定調査件数 51件(前年比 +2件) 1件 3,300円 ●認定調査時期が集中することなく、月平均4件程度のため、1人のケアマネが月1～2件の調査であった ●利用者の状態悪化にて、区分変更する件数もみられたが、大幅な減少なく、安定した件数を獲得することができた ●介護保険の有効期間が最大3～4年と期間は長くはなったが、安定した要介護認定調査件数は獲得できている				
R3振り返り	毎月の認定調査件数が一人当たり1～2件程度であったため、時間的にも余裕をもって調査をすることができた。そのため、今まで以上に余裕をもってアセスメントを取ることができ、適正な調査結果につながった。結果、本人のニーズに添ったケアプラン作成ができた				

身体障害者ホームヘルプサービス事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲												
	障害福祉サービス事業	障害福祉サービス事業	身体障害者ホームヘルプサービス事業	身体障害者ホームヘルプサービス事業	第1層(全市)												
収入(円)	自立支援給付費	利用料	補助金	受託事業	施設整備												
	11,400,362	172,741	56,700	72,540													
					計												
					11,702,343												
支出(円)	人件費	事業費	事務費	固定資産	退職積立金												
	9,004,138	696,916	16,969	0	302,000												
	拠点区分支出				計												
	1,148,000				11,168,023												
事業概要	障害者総合支援法に基づく、訪問介護事業(居宅介護サービス、強度行動援護、同行援護、移動支援)																
事業報告	<table><tr><td></td><td>令和3年度</td><td>令和2年度</td><td>令和元年度</td></tr><tr><td>利用延人数</td><td>267名</td><td>254名</td><td>203名</td></tr><tr><td>延訪問回数</td><td>3038回</td><td>2719回</td><td>2186回</td></tr></table> 同行援護 (外出先での支援) 居宅介護支援 移動支援 利用延べ12名 12回 ケア会議 43回 * 内部研修 年間10回(詳細は、老人ホームヘルプサービスに掲載) 外部研修 年2回 2月 介護サービスに関する情報交換会(リモート) 2名 高齢者支援について日頃業務で感じる悩み等、 3月 県ホームヘルプサービス事業協議会 従事者対象セミナー(リモート) 1名 ホームヘルプサービスの業務範囲、 令和3年度介護報酬改定 内部研修 年間11回(詳細は、老人ホームヘルプサービスに掲載) 外部研修 県ホームヘルプサービス事業協議会 従事者対象セミナー(リモート) 7名 障がい者を支援するために						令和3年度	令和2年度	令和元年度	利用延人数	267名	254名	203名	延訪問回数	3038回	2719回	2186回
		令和3年度	令和2年度	令和元年度													
利用延人数	267名	254名	203名														
延訪問回数	3038回	2719回	2186回														
R3振り返り	感染予防に努めながら訪問した。 昨年に引き続き、親が要介護となり、障害者自身が家事を担う立場となって、自分で出来る事が少しでも増える様支援を行った。 また、障害者自身の健康管理にも対応できるよう、受診介助、食生活の助言等を行った																

障害者計画・相談事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	障害者福祉サービス事業	障害者福祉サービス事業	障害者計画相談支援	計画相談支援事業	第1層(全市)
収入(円)	自立支援給付	障害児給付	その他の事業	利息収入	施設整備
	3,252,390	906,141	96,700	12	
	その他の活動				計
					4,255,243
支出(円)	人件費	事業費	事務費	固定資産	積立金
	2,624,212	302,588	22,069		60,012
	拠点区分支出				計
	887,000				3,895,881
事業概要	障害児・者の自立した生活を支え、課題解決やサービス利用のケアマネジメントを行う				
事業報告	計画相談支援・障害児相談支援は、10年目。昨年同様に相談支援専門員(兼務者)4名体制で対象者のプラン作成、障害程度区分調査(委託)を行った				
	相談支援給付費				
	[計画作成]	令和3年度	令和2年度	入院時情報加算 3件	
	障害者	44件	66件	モニタリング 1件	
	障害児	25件	29件	初回加算 8件	
	[モニタリング]	令和3年度	令和2年度	認定調査委託19件 (前年度 23件)	
	障害者	166件	157件	単価	
	障害児	28件	53件	1件 5千円～5.5千円	
R3振り返り	コロナ禍で、直接面談しない配慮をし電話、オンラインでの調査、モニタリングを行った。相談支援専門員の不足から、受任の依頼があっても対応できず、断わざるを得ないことが増えた。しかし、市内の他事業所も飽和状態にある。当事業所のみでこの問題を解決するのは困難だが、この、しわ寄せが障害児・者本人に行くことを防ぐため、行政とも真剣に話し合いを重ねる必要がある				

障害者相談支援事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	障害者福祉サービス事業	障害者福祉サービス事業	障害者相談支援事業	障害者生活支援センター事業	第1層(全市)
収入(円)	市受託金				計
	4,720,000				4,720,000
支出(円)	人件費	事業費	事務費	退職積立金	計
	4,337,000	103,000	11,000	269,000	4,720,000
事業概要	障害を持つ方が地域で暮らし続けることを目的に適切な相談と支援を行う。また、奥越障害者自立支援協議会の運営に参画し、新たな資源の開発等を行う				
事業報告	●相談 本人・家族778件、関係機関との相談・調整196件、ケア会議12件 ▶ピアカウンセリング ▶勝山ケース連絡会 月1回(第3水曜日) ▶奥越圏域就労支援連絡会 10回/年 開催 ▶奥越地区障害者自立支援協議会 全体会 2回 運営会議11回 専門部会4回 ▶部会内容 (i)発達障害・教育支援部会 2回 (ii)生活・居住支援部会 1回 (iii)日中活動・就労支援部会 1回 ▶相談支援連絡会 月1回 ●委託相談支援事業 (i)地域啓発 コロナ感染増加により中止 (ii)福井県自立支援協議会に参画				
R3振り返り	行政や、他の相談員との情報共有を図るため、毎月連絡会を開催できた。ハローワークとも毎月ケース連絡会を開催。情報の共有ができた。 支援内容は、本人だけではなく家族やその背景なども踏まえながら、表面だけの支援にならないよう考慮し、支援を組み立て、対応することができた				



「障害者生活支援センター」のパンフレット

障害者社会参加促進事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	障害者福祉サービス事業	障害者福祉サービス事業	障害者社会参加促進事業	障害者社会参加促進事業	第1層(全市)
収入(円)	市受託金				計
	300,000				300,000
支出(円)	事業費				計
	300,000				300,000
事業概要	地域の中で障害を持つ方が生活しやすいように社会参加を促進する事業の展開と、家族や関係機関・地域での障害理解が進み、権利擁護できるように事業を通じて働きかける				
事業報告	・啓発事業 3月19日 勝山サンプラ前にて啓発アンケート調査 →新型コロナウイルス感染拡大により中止 ・6/12 ジオ・アリーナ研修室 「災害食とお口の健康」講座 10名参加 ・12/11 勝山スキージャム「ビュッフェとお財布講座」20名参加 ・たまり場café 毎週2回(月・水)13:00～17:00 82日開催 延べ利用者数198名 (4/28～6/2までは新型コロナウイルス感染防止のため休業した) ・ITサポート相談 随時対応 ・当事者の会の育成 中途障害者「リラの会」、在宅障害者「ふれあいの部屋」支援 ・障害者生活支援センターホームページの運営管理 http://www.katuyama-sk.jp				
R3振り返り	「たまり場café」の利用者は減少傾向だった。一方で、毎回楽しみに利用される方もおられた。 利用者の固定傾向が見られる。たまり場caféの更なる周知が必要と感じた				



勝山市社協成年後見センター「ささえ愛」事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業タイトル	事業展開範囲
	公益事業	成年後見事業	勝山市社協 法人後見事業	サポートセンター 「ささえ愛」	第1層(全市)
収入(円)	共同募金	事業収入	受取利息		計
	105,000	1,587,000	39		1,692,039
支出(円)	人件費	事業費	事務費		計
	237,482	177,269	18,443		433,194
事業概要	何かしら障害があっても、自分の地域で、いつまでも自分らしく安心して暮らしていくための相談・支援				
事業報告	●新規受任件数 1件 現在10件(高齢3件、障がい7件) ●相談延件数 6件 ●専門相談件数(弁護士、司法書士) 延4件 ●運営委員会 1回開催 3/23 ●申立て 1件 (市社協が後見人として申立人になった)				
R3振り返り	現在、当社協が受任中の被後見人の母親の後見申立書作成、そのまま、受任に至った。 在宅生活を送っていた方が、長期入院となりその後施設入所になったため、その都度手続き等行った。また、被後見人の親族との連絡や、相続に関する手続き等も行った。相続等は法的手続きも発生するため、専門職にアドバイスをいただきながら支援を行った				



社協喫茶経営事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業タイトル	事業展開範囲
	公益事業	喫茶会計	喫茶会計	喫茶経営	第1層(全市)
収入(円)	売上金	受取利息			計
	1,981,610	81			1,981,691
支出(円)	人件費	事業費	事務費		計
	990,042	1,166,824	13,650		2,170,516
事業概要	福祉健康センター「すこやか」利用者の憩いの場として、創意工夫を重ね飲食の提供を行い、経営の安定を図る				
事業報告	営業時間: 月～金 10:00～15:00  営業中の風景 [メニューの一例]  カレーライス  3番入口外看板  たまご丼				
R3振り返り	会館の利用(貸館)が制限され、一般の利用者が非常に少なかったが、「すこやか」で勤務する職員の利用増で売上につながった。 令和4年度、勝山市職員の人事異動により「すこやか」で勤務する職員数が減った。そのため、売り上げが減少しないよう、対策が必要。また、食材費の値上がりなどでの影響も今後出ることが予想され、料金改訂など更なる対策や検討が必要となる				